

<p><b>1 学校教育目標</b></p> <p>校訓 至誠一貫・進取向上・自治協同</p> <p>教育目標 「文武一徳」のつくり 知性を磨き体を鍛え、徳の備わった、社会のリーダーたる人材の育成</p> <p>めざす学校像 『進学も部活動も元気の、生徒が主役の学校』 部活動の盛んな進学校として、地域から愛され、信頼される学校をめざす</p> <p>育てたい生徒像 1 高い志と使命感をもった、社会に貢献できる生徒 2 心身を鍛え、何事にも積極的にチャレンジできるたくましい生徒 3 互いに協力しながら、主体的に行動できる生徒</p>
--

<p><b>2 現状分析</b></p> <p>本校は「『文武一徳』のつくり」を教育目標に掲げ、全人的発達をめざした教育を伝統的に進めている。学校評価アンケートによると、この教育方針に基づく学校運営は生徒・保護者によく浸透しており、学校に対する高い信頼感が醸成されている。また、地域に対する文化活動・ボランティア活動を精力的に展開していることから、生徒・保護者だけでなく地域においても共感的な理解をいただいている。</p> <p>一方、進学実績については3年前に緩やかな改善傾向が見られ、一昨年度は国立大学合格者数が前年度よりも増えたが、国公立大学合格者の割合は減少傾向にあり、大学進学に対応できる学力の向上を一層図っていくことが喫緊の課題である。</p> <p>そのために、今後も生徒の学力を高め、伝統の校風を維持発展させるために、進学意識の啓発と併せて、授業改善を軸とした学力伸長のための具体的手立て及び、勉学と部活動を両立するための休養日設定等の仕組みづくりを学校全体で取り組んでいく必要がある。さらに、生徒一人ひとりが抱える学習や学校生活に関する問題に対応した個別的教育相談や指導も、初期対応に重点を置き引き続き組織的に進めていく必要がある。</p>
---

<p><b>3 本年度重点を置いてめざす成果・特色、取り組むべき課題</b></p> <p>【平成29年度の重点目標】 基本姿勢「チーム豊浦！ 文武両道への挑戦！！」</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 社会人となる基本マナーを身につけさせる</li> <li>2 第一志望合格により進路実績を向上させる</li> <li>3 部活動は休養日を入れながら、さらなる高みを目指す</li> <li>4 情報を共有し、情報を発信し、連携を深める</li> </ol> <p>【平成29年度チャレンジ目標】 「千事万箭（せんじばんせん）」（「一つひとつの事を、おろそかにせずにやっぴいこう！」の意）</p>
---

4 自己評価	評価領域	重点目標	具体的方策 (教育活動)	評価基準	達成度	実践目標の達成状況の診断・分析
教務	学習習慣の確立		朝学や授業を通して学習習慣の大切さを喚起し、継続した指導で学習習慣の確立を図る。	授業アンケートで「授業の予習または復習を行っている・ほぼ行っている」の割合が80%以上であった。 授業アンケートで「授業の予習または復習を行っている・ほぼ行っている」の割合が60%以上であった。 授業アンケートで「授業の予習または復習を行っている・ほぼ行っている」の割合が40%以上であった。 授業アンケートで「授業の予習または復習を行っている・ほぼ行っている」の割合が40%未満であった。	2	今年度の授業アンケートでは「授業の予習または復習を行っている」の項目で「行っている」が21.8%（昨年19.3%）、「ほぼ行っている」が24.4%（昨年23.1%）、合計46.2%（昨年42.4%）で昨年度を3.8ポイント上回った。朝学や、授業・全体集会・学年通信・クラス便り等を通じて喚起を継続していることも上昇した要因だといえる。しかし、依然として半数以上は「あまり行っていない」27.2%（昨年28.6%）、「行っていない」26.5%（昨年29.0%）であり、昨年度より減ったものの、特に「行っていない」項目が0に近づくようさらに継続して喚起する必要がある。
	基礎学力の定着と向上		進路指導課や各学年との連携、補習授業等の実施をする。	4: 補習対象者で欠点を保有する生徒が0名であった。 3: 補習対象者で欠点を保有する生徒が各学年1名以内または全体で3名以内であった。 2: 補習対象者で欠点を保有する生徒が各学年2名以内または全体で6名以内であった。 1: 補習対象者で欠点を保有する生徒が全体で7名以上であった。	2	重点目標を昨年の「学力の向上」から「基礎学力の定着と向上」に変え、具体的方策・評価基準を見直した。評価基準を左記のように変え調べたところ、2月1日現在、学年末考査をまだ実施していないが、2学期の補習対象者で、2学期末の成績で成果をあげたのは、1年生3名、2年生2名の計5名であった。補習対象科目数が減った者もあれば増えたものもいるが、全体的に減少している。また、1学期は補習対象ではないが、2学期で補習対象になった生徒数は増加した。
生徒指導	交通ルール・マナー順守の徹底		自転車点検を実施する。 交通安全教室を実施する。 登校指導を実施する。 全体集会における諸注意を実施する。	4: 十分指導ができ、自転車過失事故が5件以内かつマナーの徹底ができた。 3: 計画通り指導ができ、自転車過失事故が10件以内、かつマナーがほぼ守られた。 2: 計画通り指導ができたが、自転車過失事故が10件を超えた、またはマナーがあまり守られていなかった。 1: あまり指導ができず、自転車過失事故が10件を超え、かつマナーがほとんど守られていなかった。	4	1学期当初の自転車点検及び3学期の自転車ステップカー点検等により、整備の徹底がほぼできた。また、交通安全教室、登校指導、全校集会での注意喚起及び生徒による啓発活動（風紀委員をサイクルリーダーとし点検活動を実施）等を実施し、交通安全意識の啓発を図ることができた。 自転車運転に係る交通事故被害は5件であり、一定の指導の効果はあったと思われる。しかし、交通マナー違反に関する外部からの情報提供がある。全校指導や校外指導を定期的及び随時行っているが、引き続き指導を徹底していきたい。
	豊かな心の育成		校内外での挨拶、各種活動への積極的参加等の継続的指導を行う。 日常的なコミュニケーション活動や面談等による意識啓発を図る。	4: 問題行動や人間関係によるトラブルの発生率が5%未満であった。 3: 問題行動や人間関係によるトラブルの発生率が5%以上10%未満であった。 2: 問題行動や人間関係によるトラブルの発生率が10%以上20%未満であった。 1: 問題行動や人間関係によるトラブルの発生率が20%以上であった。	4	生徒課及び学年団合同による登校指導や平素の授業・部活動等による礼法指導及び生徒観察の徹底により、挨拶は励行できており、外部からの評価も高い。部活動加入率は95%以上であり、学校の諸行事、LHR活動及び地域の伝統行事、ボランティア活動等へ積極的に参加した。各HRIにおける個人面談を、学期1回プラス必要に応じて適宜実施し、教育相談室や校内いじめ対策委員会等と連携して、情報共有・迅速対応・記録保存を行った。数件の人間関係のトラブルがあったが早期に解決できた。公共の場におけるマナーについて、外部から苦情を受けることがあったが、好評価も複数受けた。社会性と公共心の向上にも努めたい。
進路指導	高校生活への適応と心の健康の保持 [教育相談担当]		教育相談の立場から、校内外の関係機関と連携しながらケースバイケースで、HR担任や生徒へ働きかけとサポートを行う。	4: 担任と校内外の関係機関と連携して、問題を抱える全ての生徒の支援をすることができた。 3: 担任と校内外の関係機関と情報を共有して、問題を抱える全ての生徒への確実な初期対応ができた。 2: 担任と連絡を取って初期対応に努めたが、時機を失したケースがあった。 1: 担任が抱え込み孤立したケースがあった。	4	メンタル面で問題を抱える生徒が増加する中で、各学年ごとに教育相談担当を配置し、迅速に対応できるようにした。それぞれ担任を支援し、サポート役として十分に機能した。また、教育相談会で話し合ったり、スクールカウンセラーと連絡を取り生徒・保護者・教員のカウンセリングをしてもらったり、必要に応じてケース会議を主催し支援の方向性を検討したり、担当医の指示を仰いだりして、生徒・保護者及び担任を適確に支援した。
	学習時間の確保と学習習慣の確立		学年毎に、家庭での学習時間を自己管理できるよう促し、学習習慣の確立につながる取り組みを実施する。	4: 家庭での学習習慣が身についたと自覚した生徒が80%以上であった。 3: 家庭での学習習慣が身についたと自覚した生徒が60%以上であった。 2: 家庭での学習習慣が身についたと自覚した生徒が40%以上であった。 1: 家庭での学習習慣が身についたと自覚した生徒が40%未満であった。	3	学習習慣に繋がる取り組みとして、1学年の初期指導でのチャレンジタイムを実施、学習手帳を導入した。学習手帳により各自が家庭学習の自己管理ができる事を目標としたが、活用している生徒は少数にとどまった。クラス担任や教科担任等からの積極的なアプローチがないと自己管理能力は身につかないと痛感している。生徒への意識付けが今後の課題である。
	進路情報の提供の充実		進路だよりの発行や保護者向け進路通信を定期的に発行し、進路に関する情報を生徒・保護者に提供し進学意識の啓発を促す。	4: 学校評価アンケートの「情報提供が進路決定に役立っている」項目で評価2以上が80%以上であった。 3: 学校評価アンケートの「情報提供が進路決定に役立っている」項目で評価2以上が60%以上であった。 2: 学校評価アンケートの「情報提供が進路決定に役立っている」項目で評価2以上が40%以上であった。 1: 学校評価アンケートの「情報提供が進路決定に役立っている」項目で評価2以上が40%未満であった。	3	保護者アンケートでは、76.7%の結果を得ることができた。保護者対象進路ガイダンスの参加者も6月の3学年対象では38名が参加。12月1、2学年対象では42名が参加し、事後アンケートの結果も好評であった。進路だよりや保護者向けの進路通信での情報提供については、発行が不定期であったため十分とは言えない状況であった。

5 学校関係者評価	学校関係者からの意見・要望等	評価
	学校側の努力が見られる。授業アンケートで7月・11月を比較すると改善傾向にあるが、予習・復習についての項目のみ「行っていない」が11月に4.4%増えているのが気になる。	C
	下校時の生徒をよく見かけるが、自転車のマナーは良くなっている。 婦人会のボランティア活動にも積極的に参加していただいている。 学校側の努力が見られ、早期解決を目標に行動、実施できている。更なる継続を期待したい。	A
	家庭学習について「家でよく学習している」の項目で「全く思わない」が保護者70名、生徒19名と親子で差が大きい。生徒の結果を信じたい。先生方の積極的なアプローチを期待する。	C

総務	学校安全の徹底	各学期ごとに施設設備等の安全点検を実施する。	4: 施設設備安全点検後の危険箇所改善率が90%以上であった。 3: 施設設備安全点検後の危険箇所改善率が70%以上であった。 2: 施設設備安全点検後の危険箇所改善率が50%以上であった。 1: 施設設備安全点検後の危険箇所改善率が50%未満であった。	4	各学期ごとに、全教員が担当掃除区域ごとに安全点検を実施した。不良箇所については事務室の協力により補修ができ、安全な学校生活ができる環境を維持している。	学校側の取組は継続して欲しい。 発信した情報を生徒や保護者が見ているか否かが気になる。	B
	情報提供の充実	リニューアルしたホームページや配付するプリント等を十分に活用して、役立つ学校情報の整理・発信を行う。	4: 学校評価アンケートの学校情報発信に関する項目(質問1)で評価2以上が80%以上であった。 3: 学校評価アンケートの学校情報発信に関する項目(質問1)で評価2以上が60%以上であった。 2: 学校評価アンケートの学校情報発信に関する項目(質問1)で評価2以上が40%以上であった。 1: 学校評価アンケートの学校情報発信に関する項目(質問1)で評価2以上が40%未満であった。	3	昨年度リニューアルした豊浦高校学校ホームページを有効に活用し、より多くの情報を学校から発信できるようになった。今後もホームページ担当者会議を開きながら、内容の更新・充実に努めていきたい。		
	図書室利用の促進	生徒・教職員のニーズに応じた資料を整え、特に生徒については、読書の習慣を定着させて本の貸出の増加を図る。	4: 今年度、本校図書館で本を借りた者が全校生徒の60%以上であった。 3: 今年度、本校図書館で本を借りた者が全校生徒の50%以上であった。 2: 今年度、本校図書館で本を借りた者が全校生徒の40%以上であった。 1: 今年度、本校図書館で本を借りた者が全校生徒の40%未満であった。	3	生徒の半数以上が、本校図書館で本を借りた。昼休みに利用している生徒が多く、落ち着いた雰囲気運営出来ている。書物以外から情報を得ることが増えているが、読書から得られる感動や豊かさについて、各教科学年と協力しながら今後も啓発していく必要がある。		
保健体育	体力の向上	スポーツテストの総合判定において、A判定が1年生15%以上、2年生25%以上、3年生35%以上をめざし、授業の充実を図る。	4: 3学年とも目標以上であった。 3: 2学年において目標以上であった。 2: 1学年において目標以上であった。 1: 全学年とも目標に達していない。	4	本校は、運動部加入率が高くその活動も盛んである。授業においても積極的・主体的に取り組む生徒が多く、学年があがるごとに、体力・運動能力が向上している。	受診率の向上に学校側の努力は見られる。個人面談のときに保護者に直接伝え、受診を促してはどうか。 部活動の顧問の協力も必要である。	C
	健康の保持増進	継続的に個別・集団の保健指導を行い虫歯の治療率を上げる。	4: 治療した者が70%以上であった。 3: 治療した者が50%以上であった。 2: 治療した者が30%以上であった。 1: 治療した者が30%未満であった。	2	歯科受診終了後に治療報告を行い、未受診の生徒については長期休業前に全校集会を利用して指導を行った。う歯の多い生徒については個別指導を実施し、受診率の向上を目指した。最終的に受診率は30%を超えたが、達成度は低いため、来年度も継続して受診率の向上に取り組んでいく。		
1年	学習習慣の確立と進路意識の向上	学習意欲の向上と学習習慣の定着、進路実現への意欲向上を図るため、学校行事・総合学習を充実させるとともに、学年日より、HR、各種資料等により、生活・学習・進路に関する情報を発信し啓発する。	4: 「家庭学習時間が平日2時間以上」、「進路目標がある程度定まった」がともに60%以上であった。 3: 「家庭学習時間が平日2時間以上」、「進路目標がある程度定まった」のいずれか一方が60%以上、もう一方が40%以上60%未満であった。 2: 「家庭学習時間が平日2時間以上」、「進路目標がある程度定まった」がともに40%以上60%未満であった。 1: 「家庭学習時間が平日2時間以上」、「進路目標がある程度定まった」について、評価2に至らなかった。	1	学習習慣確立については、年間を通じた最終的な2月末の調査では「家庭学習時間が平日2時間以上」が30.8%であり、評価2までに至っていない。入学前の3月末に実施したスタディサポートや5月に実施した生活意識調査で、「家庭学習時間が平日2時間以上」が40%を超えていることもあったが、1学期中間考査後、学習内容の豊富さと2・3年生と同じ部活動時間になったことで、高校生活に戸惑いを感じ、学習時間が十分に取れなかった生徒が多かったと思われる。 進路意識の向上については、最終的な2月末の調査では「進路目標がある程度定まった」生徒が56.9%であった。 スタディサポートや生活意識調査等各調査においても、質問項目は全く同じではなく、統一的なものの見方はできないが、60%以上の生徒はある程度の進路目標を定めているとの見方ができる。 「進路目標がある程度定まった」が40%以上60%未満であったが、「家庭学習時間が平日2時間以上」が40%未満であり、評価1とする。	まだまだ学習習慣が定着せず、個人の目標も定まらず、多岐にわたり問題点が多い。 習慣化の策が一つ欲しい。	D
2年	進路を意識した学習習慣の定着	進路研究を進めるとともに、予習・復習を中心とした家庭学習を定着させる。	4: 家庭学習時間が1年次に比べ1時間以上増加した生徒が70%以上であった。 3: 家庭学習時間が1年次に比べ1時間以上増加した生徒が60%以上であった。 2: 家庭学習時間が1年次に比べ1時間以上増加した生徒が50%以上であった。 1: 家庭学習時間が1年次に比べ1時間以上増加した生徒が50%未満であった。	1	年度末にアンケートを実施(3月12日)し、168人中(5人欠席)、「家庭学習時間が1年次に比べて1時間以上増加した」と回答したのは24人であった。これは2学年全体の14%であるので、評価基準に基づいて達成度は「1」となった。そこで全国模試の結果を精査すると、2年の11月の模試以降、偏差値45以下の生徒が学年の40%から50%に増加していることがわかった。成績中位の生徒の約10%が成績下位層に移ったと考えられ、勉強する生徒としない生徒の二極分化が進んでいるように考えられる。		
3年	進路実現に向けた自己管理能力と自己探求力の育成	スケジュール帳を利用した生活時間や進路日程の把握を、効率的な学習へとつなげる。面談等を通して主体的な進路決定ができるよう支援する。	4: 学年アンケートで、「自己管理能力と自己探求力が身についた」と回答した者が70%以上であった。 3: 学年アンケートで、「自己管理能力と自己探求力が身についた」と回答した者が60%以上であった。 2: 学年アンケートで、「自己管理能力と自己探求力が身についた」と回答した者が50%以上であった。 1: 学年アンケートで、「自己管理能力と自己探求力が身についた」と回答した者が50%未満であった。	4	アンケートの結果93%の生徒が「自己管理能力・自己探求力が身についた」という実感を持っていることがわかった。主体的な進路決定のためには「自己管理能力」と「自己探求力」が必要であると年度当初から生徒に伝え続けてきた。その手段の一つとしてスケジュール帳の活用を促すための全体指導を行った。これは、自分の生活時間や成績の目標、進路予定の把握など、これまで保護者や教員まかせにしていた部分について、自らの責任で管理するという意識付けにつながり一定の成果を得たと考える。		
業務改善	業務時間の短縮	会議時間の短縮、部活動の週一日休養日実施等を推進し、多忙化の解消を図る。	4: 業務時間の短縮率が前年度比10%以上であった。 3: 業務時間の短縮率が前年度比5%以上であった。 2: 業務時間の短縮率が前年度比5%未満であった。 1: 業務時間の短縮ができなかった。	3	業務時間の短縮率は前年度比で6.3%であった。しかし、教員一人あたり月平均で85時間の時間外業務が行われており、部活動指導の負担軽減を始めとした多忙化解消は継続課題である。	教員の個人差が大きい。先生方には、心身ともに健康な指導者でいてほしい。 IT化の促進で時短はできないだろうか。	C
	教職員の健康管理	健康診断結果に基づいた健康管理を行い、面談等の機会を使いながら受診率の向上を図る。	4: 再検査者の受診率が100%であった。 3: 再検査者の受診率が80%以上であった。 2: 再検査者の受診率が70%以上であった。 1: 再検査者の受診率が70%未満であった。	2	再検査対象者は全教職員の45.8%である。そのうち再検査の受診率は72.7%で、県立学校の平均51.6%と比較すると上回っているが、受診率100%に向けて、健康管理の啓発促進と併せて今後も努力する必要がある。		

6 学校評価総括（取組の成果と課題）	
教務	生徒の「学習習慣の確立」「基礎学力の定着と向上」をめざし取り組んでいる。生徒一人ひとりの意識が大事であることのご意見もあり、全体集会や各クラス・学年通信での喚起を継続したところ、アンケート結果は、昨年より3.8ポイントの上昇となったが、補習対象者の数は増加している。基礎学力の定着とは言い難く、家庭での時間の使い方をアンケートしたところ、平日の帰宅時間が20時以降が43.4%、スマホ等の利用時間が2時間以上が59.1%、睡眠時間7時間以上45.7%であった。スマホ等の利用では勉強・SNS・動画・音楽・電話といったものであった。「その日された宿題を復習すること」から「学年+1時間の家庭学習時間」へ意識をスライドさせ、定着と向上を目指したい。
生徒指導	生徒課内だけでなく、他分掌及び校外生徒指導機関と連携した組織的・計画的・予防的な指導の継続実施により、100%とは言えないが各種問題を最小限に抑えることができた。交通安全については、「自他の安全尊重」を軸に、同じ指導目標を数年間地道に継続実施したことにより、自転車事故の減少や交通マナー（自転車・徒歩）の改善が見られる。しかし、一部に規範意識が不足している生徒もおり、外部からの苦情も数件受けていることから、継続指導が必要である。豊かな心の育成については、挨拶の励行が浸透しており、外部からの評価も高い。また、部活動・学校行事等では生徒主体の自主的・計画的活動がみられる。生徒と教員とのコミュニケーションを深める工夫が行われており、HR担任や教育相談室による面談（保護者面談も含む）も計画的に実施した。日常的な生徒観察とともに、毎学期のいじめ・被害等のアンケート調査により、多様なトラブルの確認ができた。これによりトラブル発生時には早期対応・早期解決することができた。生徒は全体的に能動的で落ち着いた学校生活を送った。しかし、人間関係のトラブルは常に起こり得るものであり、以上の取組を基盤にしながら現行の予防的指導体制を発展させたい。教育相談活動は、教育相談室長を中心に各学年担当の教育相談係がHR担任や部活動顧問等と連携して推進した。中学校と連携した新入生の情報交換や学校カウンセラーの活用、ケースによっては医療機関とも連携した取組等と合わせ、様々な問題が概ね解決し、HR担任のサポート役として教育相談室が有効に機能した。生徒の多様化により、基本的生活習慣の確立や学校不適応に対応した指導の向上が今後ますます必要であり、教員の研修や家庭との連携の深化を勧めながら、教育相談体制の充実を進めたい。
進路指導	1年次の初期指導で行われるチャレンジタイムや大学訪問で、入学当初の高校生活の学習習慣や大学進学に関する意識付けはできたと思われる。今年度は、生徒自身が家庭学習も含めて、学習に対する自己管理能力を高める事を目指したが、年度末のアンケートでは「学習に対する取組を自分で管理できるようになった」と答えた生徒は、「思う・まあ思う思う」を合わせて、どの学年も30%前後であった。生徒への積極的な働きかけが必要と思われる。
総務	学校の施設設備については、毎学期ごと安全点検を全教員で実施し、事務室の協力も得ながら、不良個所の補修点検を常に行ってきた。今年度も防火に備えた避難訓練も行き、消防署の協力も得ながら、消火器の使い方等の訓練も実際に行った。また、昨年大幅にリニューアルした豊高ホームページを有効活用しながら、リアルタイムで学校から情報が発信できるようにその改善に努めた。図書においては、今年も生徒・教職員の希望図書を積極的に購入し、常に新しい資料を提供できるように努めた。
保健体育	体育の授業や運動部の活動を通して、体力・運動能力の向上は図られている。歯の治療については、毎学期の治療勧告を担任・養護教諭・部の顧問を通して行っているが、治療率が上がらなかった。う歯が健康に及ぼす影響をもっと理解させ、歯の積極的な治療を促したい。
1年	1学期中間考査終了までは5時に下校させるといった配慮に加え、4月にチャレンジタイム等を実施し、学習習慣を徐々に身に付けさせることができたと思われる。また、朝学において、週初めに1週間の計画を立てることと基礎学力を身に付けるための小テストを行い、このことについてもある程度定着は図れたと思われる。さらに、啓発等により自主的な意欲向上も図った。休日を計画的に設置したり、勉強会を実施している部活動も存在する。しかし、「高校における学習内容の豊富さ」と「部活動との両立がうまくいかないこと」が、十分な学習時間の確保ができないことや学習意欲の減退に繋がっており、学習習慣が確立した生徒は一部である。学習時間の確保とより自主的な学習習慣の確立が大きな課題である。LHRや総合的な学習の時間、個人面接等を通して、進路意識が高まった生徒が多くみられ、ある程度の成果はあった。ただし、具体的な詳細まで目標を掲げている生徒は少ない。大学や職業について探求する態度がより一層必要である。また、進路実現のため、学力を身に付けることが大きな課題となる。
2年	昨年度に引き続き進路指導課行事の「高大連携授業」や「カタリ場」を実施し、今年度新たに山口大学進学希望生徒に特化した「山口大学オープンキャンパス参加」バスツアーも実施した。このバスツアーには夏休み中にもかかわらず27名もの生徒が参加した。これらの進路行事は、生徒の進路意識向上に大いに役立つものと思われる。また、学年独自のニュー軸として、ベネッセ関連のSNSを活用した勉強ツールである「Classi」を山口県内の公立高等学校で初めて導入した。全国模試である「進研模試」の成績とリンクした問題・解説がパソコンやスマートフォンで学習できる。生徒各自が、自分の学力にあった内容から勉強でき、無理・無駄のない学習が可能となり、学習意欲の向上に役立つと考えられ、携帯電話でも学習できることから少しの時間でも場所を選ばず勉強できるので学習時間の増大にも通じるものと考えられた。しかし、年度末実施のアンケート結果によると、学習意欲の向上への取り組みが生徒の学習時間の増加に結びついていない。
3年	学年の取り組みとして「家庭学習を大切にすること」を基本に、自習教室にも工夫をして指導してきた。まず、比較的早い時間に下校するというルールを決めることで、帰宅後の生活時間に配慮し家庭学習の時間が確保されるようにした。また、放課後の自習教室について、「静かに学習する教室」と「教え合い話し合いながら学習できる教室」に分けることで、生徒のニーズに応じた利用しやすい環境作りをし、概ね好評であった。進路指導に関しては、担任同士の情報交換が密に行われて三者面談などで大いに役立つ。大学や専門学校の推薦入試や公務員試験など2学期中に進路が決定した生徒の大半は、最後まで受験勉強中の生徒とともに努力をしていた。反面、一部の生徒の中に授業中の集中を欠く者が見られることもあった。推薦志向が増加しつつある現状で、より効果的な学年の指導が今後求められると考える。
業務改善	業務時間は具体的な削減数値の目標を示すことで意識化できた。業務の効率化による教職員の負担軽減は健康管理の手段と捉えたい。

7 次年度への改善策	
教務	年間2回の互見授業週間、各教科1回以上の研究授業・研究協議は継続して行い、授業アンケートとともに授業改善に役立っている。また今年度進路指導課や各学年との連携して、新たに導入した1、3学年の手帳を利用したスケジュール管理、2学年の家庭学習におけるすきま時間を利用した「Classi」での学習は、学力向上に目を見張るほどの効果は現在のところまだ見られないが、少しずつ浸透していると思われる。全体集会等で「家庭学習・生活アンケート」の結果等を利用しながら、これからも継続して注意喚起していきたい。
生徒指導	年々増加している不審者事案に効果的に対応するため、現在実施している警察と連携した「防犯教室」を充実させ、効果的なものにした。これを交通安全活動と合わせ、生徒会やHR活動において、生徒が主体的に行動できるよう啓発指導したい。「豊かな心の育成」・「教育相談」については、引き続き、中学校との連携、学校内での連携、教員間の共通理解、家庭との連携を重視して充実させたい。特に、教員の研修を深めて生徒の観察力を高め、未然防止、早期発見・解決に向けて引き続き取り組みたい。
進路指導	生徒自身の進路意識（将来の夢、志望大学など）を3年間を通して継続的に向上させるため「総合的な学習の時間」の見直しを図り、また、生徒の自己管理能力を高めるために、生徒への積極的な働きかけを学校全体で取り組んでいきたい。そのために学年・教科等との連携・協力体制が必要と思われる。
総務	学校の施設設備の安全点検は、次年度も事務室の協力を得ながら、きめの細かい点検や補修を行っていききたい。防火・防災訓練は来年度も実施し、防火・防災意識の向上に努めていききたい。昨年度リニューアルされた豊高ホームページについては、教職員も積極的に参加できるようにソフト面の養成に努めていききたい。図書においては、生徒たちの読書離れの傾向が感じられるので、読書の習慣を身につけさせるよう対策を講じたい。また、PTA総会は、昨年同様多くの保護者の参加を得ながら実施できたが、さらに保護者の参加率を高められるよう、学校から様々な情報を発信していきたい。
保健体育	体育の授業・体育的行事などを通して運動意欲を引き出し、体力・運動能力の向上を図りたい。安全面においては、体育の授業や部活動などの場面において安全管理・危険予測などの指導を通してけがの防止を図りたい。う歯保有者に対しては、担任・養護教諭・部活動の顧問からの指導を強化したい。
1年	学習時間の確保について、教員、生徒の両方から考えていく必要がある。例えば部活動において、「顧問が年間と各月両方の計画を早めに生徒・家庭に示し、同時に学習計画についても指導する（休日や学力不振生徒についても考慮する。）」、「部活動内における顧問の連携、学年と部活動顧問の連携を密にする。」、「生徒は、部活動と終了後の切り替えをしっかりと行い、部室での無駄な時間を過ごさない、必要以上に自主練習をしない、計画を立て時間をうまく使う等を心がけ、生活習慣を確立する。」等が考えられる。学習意欲については、中学校とは異なる高校生活や部活動、学習内容に対する不安を早めに取り除き、自信や余裕を持たせる対策が必要であると思われる。学校行事や総合的な学習の時間、LHRに組み込まれた進路に関する活動や指導以外に、具体的な学習方法、時間の使い方、進路実現への対策等を示すことも必要と考えられる。
2年	部活動に関して、本校では平成30年3月現在94.8%の生徒が部活動に参加している。2年次の夏休み前後に3年生が引退し、2年生が部活動の主役となり忙しくなっていくのだろう。これに呼応するように2年次7月の全国模試の結果が11月の模試では学年総合平均偏差値が急激に落ち込んでいる（7月45.8→11月44.1）。しかし一方で定期考査及び全国模試における成績上位者のほとんどは運動部などの活動時間の長い部活動に所属している現実がある。これらから、生徒の中には「部活動で疲れて帰宅後は勉強できない」と訴える生徒がいるという事実を厳に受け止めながらも、部活動のやり過ぎが勉強時間増加の主な阻害要因だとは言えない。よって一般化して具体的改善策を考えることは難しい。以上から、生徒全体に対しては例年通りより一層勉強するように鼓舞しながらも、生徒個人へのきめ細かい個人面談が必要かつ有効であろうと考えられる。
3年	今年度を振り返ると、「大学・学部研究が十分に受験勉強対策も万全だった」生徒と「大学・学部研究が不十分で理解しておらず受験勉強の対策が遅れた」生徒で明暗が分かれた感がある。生徒個人が自分で研究する姿勢を養うよう指導すると同時に、担任・副担任・教科担当や部活動顧問の教員と日常的に進路相談ができるような態勢作りも必要になる。また3年までの学習習慣が確立しないまま、自分の学力の見きわめが甘くなり、最終的に志望校選びが「高望み」で終わってしまうケースも見られたため、できるだけ早期に日々の学習習慣が身につくよう1年次からの地道な指導が必須である。年々生徒の希望する進路が多様化し、一様に「四年制大学進学を目指す」指導をするのが難しくなっているのが現状である。多様化に伴って2学期中に進路を決定する生徒の割合も増加しつつあり、家庭学習期間までいかに授業の雰囲気を持っていかという点も課題としてあげられる。
業務改善	時間外業務の短縮に向けた努力をする中で、組織として学校教育目標を達成するために情報の共有化を一層図る必要がある。これらを両立させるために、ysnメールを活用した情報伝達手段などの新しい取組を検討したい。また、部活動における週1日の休養日を徹底し、生徒のバランスの取れた生活と成長の確保はもとより、教職員の業務の負担軽減に引き続き取り組む。